



園芸作物栽培についての
これからの対策
と
Q&A

9月の気象と対策

8月は気象が不安定で天候の変化が激しく作物管理には苦労しましたが、気象庁の季節予報によると向う1ヶ月間は日照やや少なく、降水量やや多く、気温も高い傾向にあるとされています。こうした状況から秋野菜の病虫害の発生が例年より多くなるのではないかと懸念されます。特

に本年は地域に集中して大雨が降る傾向が顕著になってきています。圃場の排水には充分留意してください。



圃場排水には注意しましょう。排水の良くない圃場ほどしっかり畝立しましょう。

◎主な秋野菜の定植時期
○葉物野菜

キャベツなどの定植適期は大体決まっていますが、育苗日数は育苗形態によって違ってきます。培土の量が少ないほど育苗日数は短くなります。当然植え付け後、活着までの管理も難しくなりますので家庭菜園ではポリポット苗をお奨めします。

秋野菜の定植時期及び育苗に使用したトレイによる定植時の目安は以下の通りです。また、直播のハウレンソウ、コマツナなど軟弱

品目	定植時期	128穴セルトレイ	72穴ペーパーポット 25穴連結ポット	6cmポリポット	7.5cmポリポット
キャベツ ブロッコリー カリフラワー	8月下旬～ 9月上旬	本葉2.5～3枚 (播種後 3週間程度)	本葉3～3.5枚 (播種後 25日程度)	本葉4～4.5枚 (播種後 約1ヶ月程度)	本葉5～6枚 (播種後 30～35日程度)
ハクサイ	9月上旬	上記より生育はやや早い。			
レタス	9月上旬～ 中旬	レタスは128穴トレイ播種の場合は更にポリポットに鉢上げ育苗する。			

野菜はこれからが播種適期です。

○根菜類

ダイコンなどの直播野菜では畝内が充分湿っていることが必要です。水分が不足していると発芽が不揃いとなりますので圃場作りは降雨を待ってから行います。ただし降雨直後では土壌中の余剰水分が抜けていないので、降雨量にもよりますが通常の雨程度であれば間1日おいて耕起するのが基本です。

播種に際しては深時きすると発芽不良や発芽不揃いの原因となるので注意してください。ダイコンの播種は9月10日頃まで、カブは下旬までに時きします。これから時きニンジンには年内には間に合わず、翌春取りとなります。

○イモ類

秋作ジャガイモは8月末から9月上旬に植付けます。地温の高い時期なので種芋は小さめの丸玉を使用し、切断はしません。品種はデジマなどを使います。収量はやや落ちますが6月に収穫した男爵やキタアカリなどで芽が出ている芋は使用可能です。なお、サツマイモは植え付けから約3ヶ月半後が収穫の目安です。

○越冬野菜

タマネギの播種は9月中旬時きで苗床を作って播種します。条間7～10cm、株間2cm程度の条時きとします。移植は50～55日後となります。排水の良い場所を選んでください。

◎秋野菜の定植上の留意点

既に定植された方もおられると思いますが、定植及びその後の管理について記します。

○圃場作りについて

秋作は台風シーズンを迎えますので圃場排水対策は十分にしておきましょう。排水の良くない圃場ではしっかり畝立てをしましょう。なお、近年

はネキリムシなど土壌中に潜む害虫による被害が多発していますので、予防のため基肥施用時にダイアジン粒剤かフォース粒剤などを混和しておきましょう。また、ネコブ病の発生が懸念される圃場ではアブラナ科作物の植付は見合わせましょう。他に適当な場所がない場合はネビジン粉剤かフロンサイド粉剤または



ナンブ病
本病はダイコン、ハクサイ、ネギ、ブロッコリーなど広範の野菜に発病する秋野菜の代表的な病害です。腐り込む進展が早く、悪臭を放ちます。排水不良圃場で、葉が混み合うと発生が多くなる。

ネコブ病
本病もハクサイ、カブ、キャベツ、コマツナなどアブラナ科野菜に発生しやすい。連作で被害が広がりやすく、萎れにより収穫に至らない場合が多い。

オラルクル粉剤を肥料と一緒に土壌混和しておきましょう。

○定植について

晴れた日の定植は夕方に行いましょう。植え付け時には定植後のアブラムシ・アオムシ・ヨトウムシなどの被害回避のため、植え穴にジェイエース粒剤かモスピラン粒剤などを株当たり1～2g入れておきます。新しい剤としては植付け前にプレバソフフロアブル100倍液を苗に灌注しておく方法もあります。

☆植付時処理剤(アオムシ、アブラムシなど)

農薬名	主な登録野菜
ジェイエース粒剤	カブ、キャベツ、コマツナ、ハクサイ、ブロッコリー、ミズナ
ベストガード粒剤	カリフラワー、シュンギク、ネギ、ブロッコリー、レタス
モスピラン粒剤	カリフラワー、キャベツ、ネギ、ハクサイ、非結球性アブラナ科野菜、ブロッコリー、レタス
プレバソフフロアブル5	カブ、カリフラワー、キャベツ、インゲン、ダイコン、ナバナ、ハクサイ、非結球性アブラナ科野菜、リーフレタス、ブロッコリー、ハウレンソウ、レタス

定植にあたって、苗の培土は圃場の土でしっかりと覆つたうえでください。培土が露出していますと培土が乾きやすくなり活着が遅れます。また、黒マルチを使用の場合は日中、熱気が上がってこないように土で開口部をしっかりと押さえてください。植え付けが終わったら灌水をしておきましょう。

○定植後の管理

活着し根が動き出すまで約1週間は毎日水やりし苗の状態を確認しましょう。スムーズな活着が以降の生育を左右します。1回目の追肥は定植2～3週間後となります。施用にあたってはやり過ぎないこと、株元に近すぎないことに注意しましょう。

○害虫防除

土壌処理剤や植え穴処理剤の効果は約1ヶ月程度ですので、害虫の発生が開始したら早めに農薬を散布しましょう。

(秋野菜の散布農薬早見表と農薬の希釈法及び家庭菜園お奨め農薬については本誌平成28年9月号を参照してください。)

大門 優
園芸アドバイザー
お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農生活課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499

バックナンバーはJAたんなんホームページ
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。